

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	13-065	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Changes in Alcohol Intake and Their Relationship with Health Status over a 24-Year Follow-Up Period in Community-Dwelling Older Adults. 在宅高齢者の24年間の追跡期間中におけるアルコール摂取量の変化と健康状態との関係		
執筆者		
McEvoy LK, Kritz-Silverstein D, Barrett-Connor E, Bergstrom J, Laughlin GA.		
掲載誌		
J Am Geriatr Soc. 2013 Aug;61(8):1303-8. doi: 10.1111/jgs.12366. Epub 2013 Jul 18.		
キーワード		PMID
高齢者、アルコール歴、飲酒、高血圧、糖尿病患者、追跡調査		23865905
要 旨		
<p>目的： 高齢者で経時的にアルコール使用が変化するか、アルコール摂取量が一般慢性疾患と関係しているか検証する。</p> <p>方法： 南カリフォルニアの Rancho Bernardo コホート研究において 50 から 89 歳の 1,076 名を対象とした。参加者は 1984～2009 年までの間、おおよそ 4 年間隔で 2～6 回の研究訪問を実施した。それぞれの訪問で参加者はアルコール使用、慢性疾患と行動に関する標準的な質問票を記入した。一種間のアルコール平均摂取量の経時的な変化と健康状態との関連を検証するために混合効果線形モデル(Mixed-effects linear model)が用いられた。</p> <p>結果： 毎週飲酒する者の 60%以上で飲酒率と飲酒頻度がこの調査を通して高かった。最も一般的な 8 つの慢性疾患の有無に関わらず、年齢が進むにつれてアルコール平均消費量は減少した。『年齢と性別の低リスクのガイドライン』で過剰飲酒とされる人の割合は全ての訪問調査者で高く、病気の有無とは殆ど関係がなかった。最終の訪問調査において 29%が『低リスクガイドライン』で過剰飲酒に該当し、そのうち 28%は高血圧、31%は糖尿病患者であった。</p> <p>結論： この教育歴の有る白人の中流階級の高齢者の集団では、アルコールの摂取割合と摂取頻度は、24 年の追跡研究で変わらなかった。しかし、アルコールの平均消費量は加齢とともに減少したにも関わらず、一般的な慢性疾患のある人を含む高齢者では高い割合で現行ガイドラインを超える飲酒を行っていた。医師は、高齢者に飲酒を控えることの重要性についてもっと指導すべきある。</p>		